

## 平和メッセージ

広島への原爆投下により犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を捧げるとともに、今なお原爆の後遺症に苦しめられている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

1945年8月6日、広島に一発の原爆が放たれました。TNT換算16キロトンの業火により街は一瞬にして破壊され、罪なき多くの市民の尊い命が奪われました。また、辛うじて生き延びられた方々も、家族を失った悲しみに加え、放射線を浴びたことによる健康上の不安に苛まれ続けています。

我が国は、核兵器による唯一の戦争被爆国として、核兵器の非人道性や恐ろしさを伝え、二度とこのような惨禍を体験することがないように、核兵器の廃絶を訴え続けてきました。

しかしながら、世界には、依然として12,000発以上の核兵器が現存し、さらには、核兵器を脅しに使用する侵略戦争が起きるなど、核兵器の使用がこれまでになく現実味を帯び、その脅威は再び我々人類にのしかかっています。

このような情勢のなか、今年、広島を会場として開催された「G7首脳会議」において、「核兵器のない世界」の実現に向けて取り組む決意が共有されました。これは、被爆者をはじめとする多くの方々による地道な非核・平和運動の賜物であり、このことに深い敬意を表するとともに、一方で、被爆者が語ってきた被爆体験こそが、人の心に訴え、核兵器の使用を阻む力となりえるものであり、今を生きる私たちが被爆者の思い、体験を受け継いでいく必要性を再確認いたしました。

本市は、「平和首長会議」の一員として世界各国の都市と連帯し、核兵器廃絶に向けた国際世論の気運を高めるとともに、戦争体験を後世に語り継ぐ事業として「平和を考える戦争展」の開催をはじめ、この広島平和記念式典に市民代表を派遣するなど、市民の平和な暮らしを守る自治体として、積極的に平和活動に取り組んでいます。

そして、この広島が世界恒久平和の拠点となり、被爆の実相を風化させることなく、すべての人々が核兵器廃絶に向けた思いを共有し、一日も早く核兵器のない真に平和な世界が実現することを願っています。

令和5年8月6日

大阪府富田林市長 吉村 善美